



国民の森林・国有林

林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



左側から宮崎長野県木材協同組合連合会理事長、新島局長、阿部長野県知事、藤原長野県森林組合連合会代表理事会長

## 信州産カラマツのブランド化

# 「信州プレミアムカラマツ」と命名

## 名称制定記念発表会で記念撮影

主な項目	○ 信州産カラマツのブランド化を推進 ブランド名「信州プレミアムカラマツ」を発表 .....	P2
	○ 各地からのたより .....	P5
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P10



PR用「のぼり旗」

「資源活用課」五月二十五日、長野市のビッグハットにおいて、信州産カラマツのブランド名の発表会を開催しました。

当日は、国際ウッドフェア開催中ということもあり、海外の木材関係者をはじめ、報道関係者など約百五十名が発表会場に集まり、「のぼり旗」や「カラマツ製品」も展示された会場には、長野県PRキャラクター「アルクマ」も参加し盛大に実施されました。

ブランド名は「信州プレミアムカラマツ」と命名したことを発表し、昨年より長野県と中部森林管理局でプロジェクトチームを組織し、木材関係団体と共働する中で取り組んできた経過を説明しました。

「信州プレミアムカラマツ」の規格は、長野県産の林齢八十年生以上の高齢級カラマツ人工林から出材された径級三〇センチ以上の良質な大径材丸太としていきます。

人工林カラマツは、高齢になるほど木材の性質が安定化し、ねじれにくい成熟材の多い大径材になります。スギやヒノキと比べ強度が優れており、心材部分は銚色できれいな木目をいかした無垢材として構造用等の建築材に使用されています。林齢八十年生以上の資源量は長野県が国内の四五割を占め、全国一の資源量を保有しています。



発表会で挨拶する新島局長

発表会には、長野県知事、中部森林管理局局長、長野県森林組合連合会代表理事会長、長野県木材協同組合連合会理事長の四名が出席する中、阿部長野県知事からは、「信州産カラマツの強みや美しさをPRし、全国に売り込んでいきたい」と挨拶があり、新島局長からは、「信州産カラマツは日本の住宅建築で国産材率

材の性質が安定化し、ねじれにくい成熟材の多い大径材になります。スギやヒノキと比べ強度が優れており、心材部分は銚色できれいな木目をいかした無垢材として構造用等の建築材に使用されています。林齢八十年生以上の資源量は長野県が国内の四五割を占め、全国一の資源量を保有しています。

## 信州プレミアムカラマツ

長野県産の林齢80年生以上の高齢級カラマツ人工林から径級30cm以上の良質な大径材丸太を厳選し「信州プレミアムカラマツ」と称して供給・販売を開始します。

**高齢級カラマツの特徴**

- 人工林カラマツは、高齢になるほど木材の性質が安定化し、ねじれにくい成熟材の多い大径材になります。
- スギやヒノキと比べ強度が優れており、心材部分は銚色できれいな木目をいかした無垢材として構造用等の建築材に使用されています。
- 林齢80年生以上の資源量は長野県が国内の45%を占め、全国一の資源量を保有しています。

**高齢級カラマツの資源量**

- 林齢50年生前後の森林が大半ですが、大正から昭和初期に植栽された人工林から大径材丸太を生産します。
- 今後は良質な大径材が安定供給されますので、高品質な製品としての利用を推進します。

**信州プレミアムカラマツの供給**

- 平成29年度は長野県内から生産される丸太の中から、規格\*1に合った材を厳選して、主に長野県各地の原木市場等に供給します。
- 市場では、のぼり旗によるPRや木口に産地、林齢を表示する外、物件明細にも「信州プレミアムカラマツ」と表示しブランド化を図ります。
- \*1：別紙(裏面)の品質・規格です。

**信州産カラマツの民有林材の供給・利用に関すること**  
 長野県林務部産材利用推進室  
 (室長) 丸山 勝次 (課長補佐) 中野 恵司 (担当係長) 藤原 亨  
 電話 026-236-7266 (直通) 026-232-0111 (代表) 内線3275  
 F A X 026-236-7364 E-mail:mokuzai@pref.nagano.lg.jp

**信州産カラマツのブランド材の規格、国産林材の供給に関すること**  
 長野県中部森林管理局産材活用課  
 (企画係) 木村 敬次 (担当係長) 百瀬 厚  
 電話 026-236-2681 (直通) FAX 026-236-2686 E-mail:toshio.kimura720@maff.go.jp

PR用のパンフレット

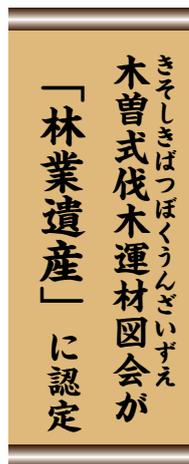
の低い梁、桁などの横架材として今後期待できることや、時間とともに銚色となるエイジングウッドとしての魅力があることから、計画的な供給に努め、林業の成長産業化や地域振興に繋げていきたい」と挨拶がありました。

最後に、名称発表を記念して、奈良井国有林から出材された信州産カラマツで作った二つのプレートに発表者四名がサインを行い、記念撮影をして発表を終了しました。

今後は、この「信州プレミアムカラマツ」を使用した梁などの製品のブランド化を進め、より付加価値を高めていくこととしています。



国際ウッドフェアへ出展した中部森林管理局ブースの様子



【経理課】中部森林管理局で保管している絵巻物「木曾式伐木運材図会」が、五月二十三日、(一社)日本森林学会により「林業遺産」として認定されました。中部局関係では「木曾森林鉄道」に続き二件目です。



「林業遺産」の認定証

「林業遺産」とは、日本各地の林業の歴史を読み解き、将来にわたって記憶・記録していくため、林業発展の歴史を示す土地に結びついたものを中心に、体系的な技術、特徴的な道具類、古文書等資



絵巻物二巻 (右上巻10mと左下巻13m)

料群を対象として、(一社)日本森林学会が認定・登録しているものです。今回新規認定された七件を含め、今までに全国で二十三件が認定されています。

「木曾式伐木運材図会」は、江戸時代後期頃の木曾地方や飛騨地方で行われていた伐木・運材の技術を描いた絵巻物二巻です。奥山で大木を伐採するところから、造材、搬出・集材、木曾川でのいかなによる流送、熱田白鳥木場(愛知県名古屋)での集積、大型船による海上輸送までの様子が、作業工程順に絵図と詞書で説明されています。絵師、制作時期、制作目的、中部局に保管されている経緯等については、それらを明らかにする文献等が見つかっておらず明確ではあ

りません。しかし、岐阜県高山市で江戸時代後期に制作された絵図をオリジナルとし、林業・木材産業に関する博覧会への出展や皇族・政府高官などへの説明用として、明治時代に制作されたであろうと言われています。類似の絵図や版画が複数存在していますが、「木曾式伐木運材図会」は、これらの中で最も丁寧に描き込まれ、豪華につくられた最上級の美品です。

このため、日本林業史の研究・教育等にとって極めて重要なことはもちろん、鑑賞性や日本近代絵画史の面からも貴重な価値があり、「林業遺産」にふさわしいとされました。

この「林業遺産」認定を記念して一日限定の特別公開を行ったところ、約四十



元伐之図 (一部分を拡大)



1 日限定の特別公開中の様子

名という大勢の方々が見学にいらっしました。

永年大切に保管してきた「木曾式伐木運材図会」が「林業遺産」に選定されたことは、中部局にとって誠に光栄なことです。日本林業史上貴重な資料として、また、中部局の宝物として、今後も厳重かつ良好な状態が維持されるよう保管していくこととしています。さらに、国民の皆様へ広く紹介することも検討しています。

\*木曾式伐木運材図会は、中部森林管理局ホームページでご覧になれます。

<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/>

## 第六十八回全国植樹祭 とやま二〇一七開催

「技術普及課・富山署」五月二十八日、富山県魚津市の魚津桃山運動公園において、天皇后陛下のご臨席のもと、「第六十八回全国植樹祭とやま二〇一七」が開催されました。



「第68回全国植樹祭とやま」会場の様子

富山県での全国植樹祭の開催は、昭和四十四年の砺波市における第二十回大会以来、四十八年ぶり二回目の開催となり、富山県内外から約七千五百人が参加しました。

プロローグでは、標高三、〇〇〇メートルの北アルプス立山連峰から海底一、〇〇〇メートルの富山湾までの「高低差四、〇〇〇メートル」のダイナミックな地形がもたらす豊かな自然や文化が、映像や創作舞踊によって表現されました。

式典では、天皇后陛下下によって、富山県において全国に先駆けて開発された優良無花粉スギ「立山 森の輝き」(タテヤマスギ) など六種の「お手植え」と、世界遺産五箇山合掌造りの木組みの結束材に使用されるマルバマンサクなど四種の「お手播き」が行われました。また、山本農林水産大臣、今井林野庁長官、新島中部森林管理局長らによる代表者記念植樹が行われました。このほか、オペラ歌手による越中万葉の歌唱や、富山県内の中学生による富山の森・海の保全等に関するメッセージの発表によつ



代表者記念植樹をした  
植樹木と新島局長

て、大会テーマ「かがやいて水・空・緑のハーモニー」が表現されました。リレーセレモニーでは、エノキの苗木と木製地球儀が、次回開催県である福島県知事へ手渡されました。

エピソードでは、映像による魚津市の「たてもん祭り」や「高岡御車山祭」の紹介に続いて、南砺市五箇山の「麦屋節」や魚津市の「せり込み蝶六」が披露されました。また、富山県内で森づくり活動に取り組む百七十九団体等が集結し、そのうち四団体が、活動内容や富山の森に対する思いを発信しました。グラインドフィナーレでは、全出演者により、久石譲氏作曲の「ふるさとの空」(富山県ふるさとの歌) を大合唱し、盛大な閉幕となりました。

会場には、全国へ富山県の魅力を発信する場として、式典エリアに隣接して「おもてなし広場」が設けられ、県内の各市町村、団体等と並び富山森林管理局でもブースを出展しました。

ブースでは中部森林管理局の取組や北アルプスでの高山植物保護に関するパネルと合わせて、林野庁情報誌で連載されている「お山ん画」のパネル展示を行いました。出展中、林業関係者だけでなく、多くの一般招待者の方々がパネルの前で足を止めて見入っており、国有林野事業の役割と森林づくりに関心を持っていただくことができました。

また、直に木に触れてもらいながら、

参加された方々に植樹祭の記念となるように木製ストラップ・ペンダント作りも実施しました。

これらは、伐採木の輪切りとカラー紐、植樹祭シンボルマークのタグを使いながら、作る方の想いを木口面にイラスト等を描くもので、用意した四百個のパーツが殆ど無くなるなど、お子さんを中心に大勢の方々に楽しんでいただき、盛況のうちに終わることができました。

来年度の全国植樹祭は、福島県南相馬市で開催されます。



大勢の方々にぎわう富山森林管理局のブース

## 希少植物の保護に 電気柵を設置

「ふれあい推進センター」長野県木曾郡木曾町に所在する城山国有林には、長野県指定希少野生動物植物であるササユリ、

ヤマシャクヤク等が自生しています。地元住民らで構成する「城山史跡の森倶楽部」では、多様な活動の森に関する協定に基づき希少植物の保護活動に取り組みられています。自生地で動物による被害が発生していることを踏まえ、同倶楽部と連携して昨年から電気柵の設置を始められています。

今年度は、五月八日に同倶楽部の十名の皆さんとともに、ササユリ及びヤマシャクヤク生育地に電気柵の設置作業を行いました。



急傾斜地での作業風景



ヤマシャクヤクの花

地等足場が悪い中での作業となりましたが、柵の支柱建てやワイヤーの取り付けに加え、保全活動への啓発、事故防止の観点から電気柵の周囲へグリーンロープも取り付けました。

また、ササユリ生育地では柵に障害物が触れないように雑草等の刈り払いと隣接する四阿等の構造物にも配慮し電気柵を設置しました。

今年度の作業は天候に恵まれ、大勢の参加により四箇所、総延長三二〇メートルの柵を無事に終えることができました。今後も地域の方々と連携した希少植物の保全活動等に努めていきたいと考えています。



無事作業が終了した現地、可憐な花々を期待しています。

## 各地からのたより

### 木曾の国有林見学会

(春季) を開催

「ふれあい推進センター・名古屋事務所・木曾署」五月二十五日、木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会二〇一七春季」を開催しました。

この催しは、江戸時代から深い繋がりを持つ木曾地域と名古屋の関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾川源流域の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び名古屋の熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生産地を実際に見聞きしていただく学習講座です。一昨年度から春季及び秋季に開催しており、口コミ等により名古屋市民から好評をいただき、募集開始の二日後には定員満了となりました。

当日は早朝から雨模様でしたが、名古屋市内を中心に参加された四十四名とスタッフ二名の四十六名が名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」を出発、一路木曾路に向かいました。赤沢自然休養林到着後は、金口次長をはじめガイド等を行う国有林職員八名により現地案内を実施しました。

参加者はこの見学会に先立ち、五月十七日に、名古屋の木材産業と森林・林業の歴史や、国産材を使うことの意味、上流域の森林(国有林)と下流域の名古屋市の結びつきなどを同歴史館で事前学習をしました。

また、途中からバスに乗車したふれあい推進センター所長から、赤沢自然休養林までの景勝地等の説明を受け、想いを膨らませながら木曾ヒノキの生地へ向かいました。

一行が赤沢自然休養林に到着後、金口次長から歓迎の挨拶があり、森林交流センター研修室で昼食をとり、森林鉄道で雨上がりの木曾ヒノキの森林と溪流が織りなす景色を眺めながら休養林の奥へと向かいました。終点の「丸山渡停車場」で下車し、歴史とともに育まれてきた樹



金口次長からの歓迎挨拶



職員のガイドに聞き入る参加者

齢三百年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策しながら、職員のガイドにより、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学習しました。

参加者からは、「自然を満喫した」「森林鉄道が素晴らしかった」「木曾五木の森林は壮大である」「また参加したい」「名古屋とは空気が違う」といった感想が聞かれました。

なお、この催しは、木曾復興支援の取組としても位置づけており、今後も実施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しとなるよう努めて参ります。

### 大桑村と合同植樹祭を開催

〔南木曾支署〕五月二十日、長野県木曾郡大桑村のぞきと森林公園近くの村有林

において、大桑村と当署の合同植樹祭を開催しました。

この植樹祭は毎年恒例行事であり、当日は、村内や愛知県北名古屋市等から約百八十名の参加がありました。

植樹に先だつて、大桑小学校五年生によるヒノキ間伐材を有効利用し自作した「木製コカリナ」による演奏、また、北名古屋市「師勝少年少女合唱団」の合唱が行われ、参加者は美しい音色と歌声に聴き入っていました。

当日は、雲一つない大変暑い日となりましたが、額の汗を拭いながら参加者全員で、紅葉が楽しめるカエデなど約二百五十本植樹しました。



小学生が協力して植樹中

午後には、参加した小学生を対象に森林教室を実施し、ハンノキ等の小枝を

使ったエンピツ作りを行い、時間を忘れて熱中する児童が多く大好評でした。今回も地元からの要望に答え、当署職員の協力のもと、事前準備から当日まで対応し無事終了することができました。



小枝を使ってエンピツを作製中

### 市民団体へ

#### 林野庁長官感謝状を贈呈

〔南信署〕五月二十日、多摩市八ヶ岳少年自然の家で「フレンドツリーサポートーズ(F.T.S)」へ、国民の森林づくり推進功労者に対する林野庁長官感謝状の贈呈を行いました。

F.T.Sは、南信署と東京都多摩市が国有林をフィールドとして体験林業等を行う目的で、平成十七年度に協定を締結した「遊々の森…多摩市民の森・フレン

ドツリー」で、毎年五月から十月の毎月一回、少年自然の家を活動拠点として毎週土曜日から日曜日の二日間カラマツ人工林の間伐作業を行っています。また、この活動を通じて都市部と山村地域との交流を促すとともに、多摩市の緑地管理等にも貢献されています。

当日はF.T.Sの今年度最初の活動日で、二十名の会員が見守る中、南信森林管理署長から安永尚志会長へ木製の長官感謝状を贈呈しました。会員の皆さんは授与された感謝状を次々と手にし、「一枚板の素晴らしい物だ、香りにもとても癒やされる。長年の活動が認められた」「作業後は、感謝状を囲んで祝賀会だ」と喜んでおられました。



感謝状と共に会員の皆さんで記念撮影(前列左、久保南信署長)

会員の皆様は授与式後さっそく安全ミーティングを行い、新緑のカラマツ間伐作業に取り掛かり、今年度の活動をスタートされました。

後日、安永会長から「五月二十三日、多摩市長、教育長等へ受賞の報告を行い祝辞と敬意を受けました。木製の感謝状に市長も驚かれ、当面は教育長室に展示し、その後市民の目に触れるように市の施設を移動して展示していく予定です」と写真を添えて報告がありました。

受賞を契機に、新たな会員の増加と更なる国民の森づくりの推進が期待されます。



多摩市長等へ報告後の記念撮影  
安永会長（左2人目）阿部多摩市長（中央）

## 第二十七回

### 「つけち森林の市」を開催

【東濃署】五月三日から五日までの三日間、第二十七回「つけち森林の市」が開催され、裏木曾街道公園・道の駅「花街道付知」の会場で、高塚東濃署長の乾杯の発声で幕をあげました。



高塚東濃署長の乾杯で幕あげ

会場には広場いっぱいにとんぼが並び、木製品・素材展示販売などのなか、東濃署も三日から四日の二日間、丸太切りをして鉛筆立てを作製するコーナーをメインにブースを出展しました。天候にも恵まれたことから人の切れ目がないほどの大盛況でした。

「つけち森林の市」も今年で二十七回目を迎え、ゴールデンウィークの行事として定着するなか、当署もテント張りなどの準備から参加するなど、「地域に貢献する国有林」を広くアピールすることができました。



「上手に切れるかな」盛況の東濃署ブース

## ふるさとの森づくり県民の集い 第六十六回長野県植樹祭を開催

【技術普及課・東信署】六月三日、長野県小県郡長和町「エコバレースキー場」において、長野県・中部森林管理局・長和町などの主催による第六十八回

長野県植樹祭が、「この森に夢と希望がつまっている」を大会テーマに開催され、一般参加者を含め約千人が参加しました。

地元「ながと不動太鼓」による歓迎アトラクションの後、新島局長による開会の言葉で式典が開始され、阿部長野県知事や来賓の挨拶、みどりの少年団による「みどりのふれあい宣言」や、信州上小森林組合の若手技師によるユーモアいっぱいの植樹説明等があり、和やかな雰囲気ですべて終了しました。

参加者による植樹は、昨年度の全国植樹祭の開催理念である、「植えて・育て・利用する『森林サイクル』を取り戻そう」を具現化するため、長野県の代表的樹種であるカラマツの带状伐区に新たな



コンテナ苗の植樹方法を説明する東信署職員

なサイクルの出発としてカラマツを植樹しました。長野県と東信署職員によるコンテナ苗の紹介と植樹方法の説明の後、コンテナ苗三百本と裸苗三千本を植えました。

また、会場内の展示ブースでは、東信署が、中部局と東信署の取組についてパネル展示を行い、長野県とともにブランド化して供給・販売する「信州プレミアムカラマツ」のPRも行われました。

午後は、長和町役場に移動して、主催者等により、長野トヨペット株式会社寄贈の福島産ソメイヨシノ「ふくしま」の記念植樹を行いました。



みどりの少年団と記念写真



岐阜県庁環境企画課職員の講習を真剣に聞く受講者

**鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催**

「岐阜署」六月五日に、岐阜署主催で鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催しました。

林野庁では、農林業被害の防止・軽減、生態系被害の抑止のため、また国有林の管理者として自衛捕獲が必要との観点から、国有林野事業職員研修規程に基づく講習会を毎年開催しています。この講習会を過去三年以内に履修した国有林野職員は狩猟免許が無くても国有林内において有害鳥獣捕獲ができます。今回は岐阜署をはじめ、飛騨署、東濃署、森林技術・支援センター、名古屋事務所の計六十五名が受講しました。



松嶋総括地域林政調整官からくくり罠の講習中

午前は、岐阜県庁環境企画課の職員から、鳥獣保護及び管理並びに狩猟に関する講習を受けました。地域の人が山林を使わなくなるとともに、野生鳥獣の需要（肉と皮）が激減した結果、鳥獣の個体数が増加し、今ではニホンジカの分布域は県内のほぼ全域となり、高標高域でも目撃され、生息頭数は約五万頭に増えています。岐阜県では狩猟期間の延長や狩猟頭数の緩和に取り組みとともに、狩猟免許の講習会や試験を土日に開催し、狩猟者の増加と若返りに努めています。

午後は岐阜署の松嶋総括地域林政調整官から、くくり罠のルールや、罠の講習と種類、設置方法の実技の指導を受けました。

実技では受講者がくくり罠の設置を体



くくり罠の設置体験「思ったより力がいらすね〜」

験し、「思ったより力がある」という感想が聞かれ、「安全ピンを抜くときに顔を近づけないように」という講習で説明を受けた内容に納得していました。

**行事・会議等の予定**

◎林野庁内部監査

7月3～7日

中部局・岐阜署・愛知所

◎第1回木曾悠久の森管理委員会植生管理専門部会

7月11・12日

木曾署ほか

◎高山植物保護協議会

7月26日

中部局

◎人事・給与担当者打ち合わせ

7月27・28日

林野庁



中信森林管理署 姫川治山事業所

治山技術官 帆足 郁

新潟県糸魚川市に所在する姫川治山事業所は、長野県白馬村に端を發し日本海へ流れる姫川流域において昭和四十八年より民有林直轄治山事業を実施してまいす。

管轄する姫川流域は、北アルプスをはじめとする急峻な地形に加えて、日本を東西に二分する糸魚川―静岡構造線の構造運動により深部まで破砕が進んだ脆弱な地質となっており、昭和四十二年の赤禿山の地すべり性大崩壊をはじめ、長野・新潟両県にまたがる広い範囲で地すべりや斜面の崩壊が発生しており、発電所施設、民家、国道等へ大きな被害が発生しました。その復旧には高度の技術を要し、二県にまたがる大規模な事業となること等から、長野・新潟両県より強い要請があり昭和四十八年より「姫川地区民有林直轄治山事業」として着手しました。

当事業所では、年間十件ほどの工事を中信署の協力を得ながら事業所職員三名で行っています。工事現場へのアクセスには、公道はもとより電力会社の管理用道路を使わせていただくことや、必要によつては民有地内に作業道を作ることもなおります。そのため自治体をはじめ地

権者、地域の方々への事業の説明や土地使用に関わる協議を行い、工事の実施、道路、土地の使用についてご理解ご協力をいただけるように努めています。

工事の工法は崩壊地や荒廢溪流を復旧、保全する山腹工や溪間工、地すべりの原因となる豊富な地下水を排除するための集水井工や集水ボーリング工、排水ボーリング工等を施工して地すべり活動の抑制を図っており、現場の条件によつてはアンカー工等の地すべり活動を直接抑止する工法も選択しています。



集水井工

集水井工の内部

工事の実行においては急峻な地形に加え積雪が数日に及ぶ特別豪雪地帯ということもあり、雪解けは遅く降雪は早いといった工事可能な期間に限られる厳しい条件の中で施工を行っています。そのような現場において安全で効率的な施工をしてくださる請負事業者の方々には大変感謝しています。発注者としても工事を安全第一で、より効率よく行うため請

負事業者等へ安全会議や署長による現場安全巡視を実施し、労働災害防止対策、安全意識の高揚を図っています。工事方法もラジコン運転が可能な無人化重機を使用するなど安全で効率的な工事方法を取り入れています。



無人化施工 (のり切工)

【蒲原沢について】

姫川地区の事業地のひとつである蒲原沢においては、平成七年梅雨前線豪雨により流域の荒廢が著しく進んだことから民有林直轄治山事業として施工を進めています。平成八年十二月六日に復旧治山工事を行っていた作業員三名を含む十四名もの尊い命が失われた「蒲原沢土石流災害」が発生しました。昨年で災害発生から二十年となり、蒲原沢の復旧も進んできていますが、災害を教訓として風化させること無く「災害に想定外は通

用しない」という意識を持ち、無事故無災害で事業が完了するよう取り組んでいきます。



蒲原沢の施工地遠景



施工地 (大所川左岸の山之坊) をバックに、姫川治山事業所の3名 (真中が筆者)



名古屋熱田区と言えは熱田神宮があまりにも有名ですが、今回は、熱田神宮周辺の史跡をご案内します。

**■断夫山古墳**

熱田神宮から見て北西の位置に「断夫山古墳」があります。

この古墳は、東海地方最大の前方後円墳で、全長一五一メートル、前方部の幅一一六メートル、後円部の直径八〇メートル、前方部の高さ一六・二メートル、後円部の高さ一二・三メートルの規模を誇ります。

この古墳は、六世紀初め、尾張南部に勢力をもった尾張氏の首長の墓と考えられています。また、言い伝えによれば日本武尊に



ミニチュア断夫山古墳

思いをいだいて死んだ宮簀媛の墓とも言われ、夫を断つ山から断夫山古墳と名前が付いたとのことです。

**◆所在地**

愛知県名

名古屋熱田区旗屋一―一〇―四五

**◆アクセス方法**

名古屋市営地下鉄 名城線 神宮西駅

より徒歩八分

**■白鳥古墳 (白鳥御陵)**

「断夫山古墳」より、より熱田神宮に近い場所に「白鳥古墳 (白鳥御陵)」があります。

この古墳も六世紀初めの築造の前方後円墳です。

全長は約七四メートルありますが、前方部、後円部の東側が削り取られているた



断夫山古墳の林相

め原型が損なわれています。

古くから日本武尊の御陵との説があり、日本武尊が白鳥となつて熱田の宮に飛び来たり、降り立った地であることから、白鳥御陵と名付けられたと言われています。

**◆所在地**

愛知県名古屋熱田区白鳥一―二

**◆アクセス方法**

名古屋市営地下鉄 名城線 神宮西駅

より徒歩六分



白鳥古墳 (上 近景・下 遠景)



赤丸が断夫山古墳、青丸が白鳥古墳、緑丸が熱田白鳥の歴史館

出典：国土地理院ウェブサイト

NHKの名古屋を歩く番組でも紹介された「熱田台地」は、名古屋の大部分が海であった頃より陸地部であり、古くからの史跡も残っています。

「熱田白鳥の歴史館」(名古屋事務所内)と併せ、ブラブラしてみたいかがでしょうか。

**■熱田白鳥の歴史館**

**◆所在地**

愛知県名古屋熱田区熱田西町一一〇

**◆アクセス方法**

名古屋市営地下鉄 名城線 神宮西駅より徒歩十五分